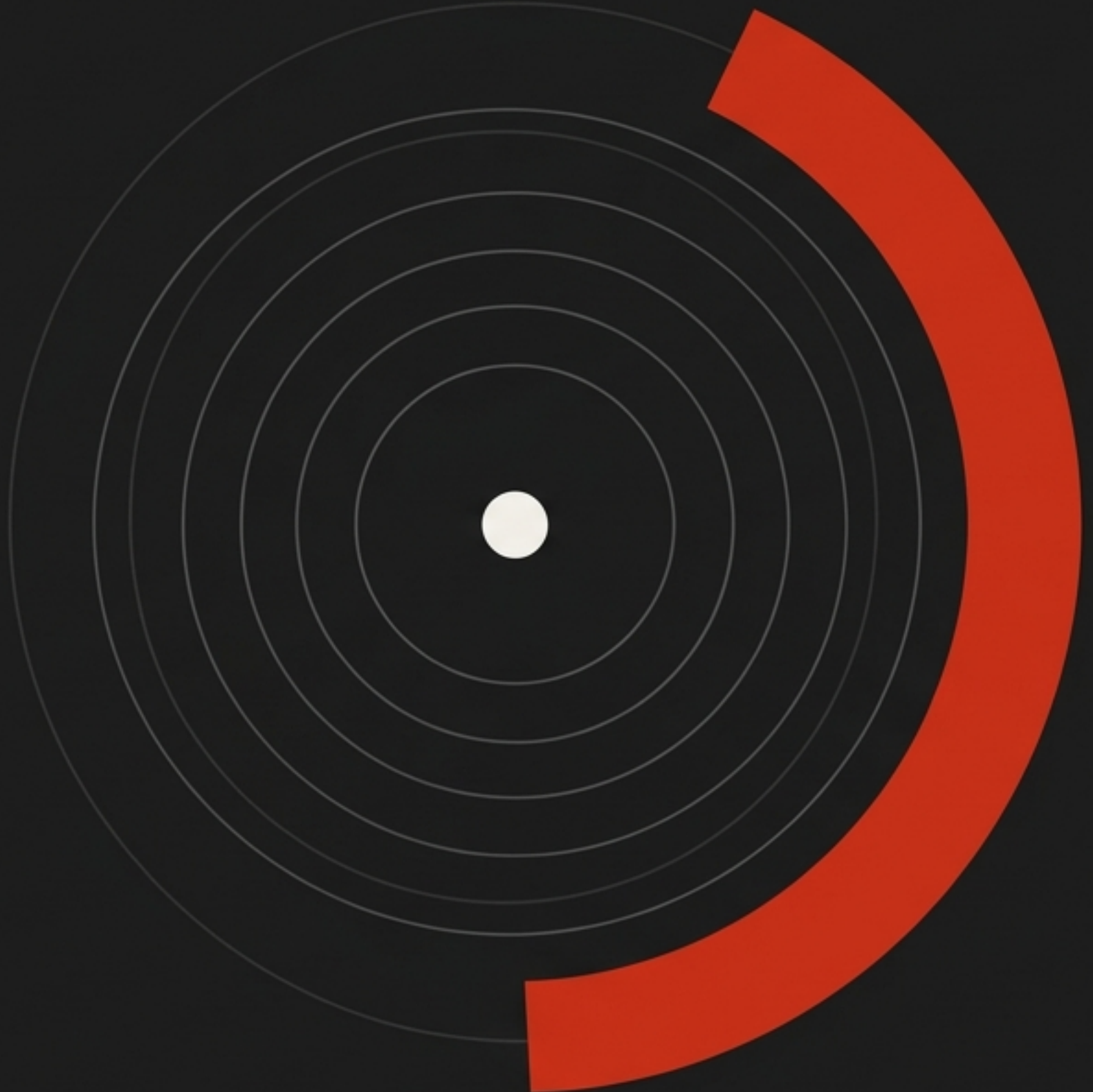


格言：胸倉をつかんだか？

チームにおける「沈黙」は、優しさか、それとも保身か。



相手に踏み込むことには、
リスクが伴う。

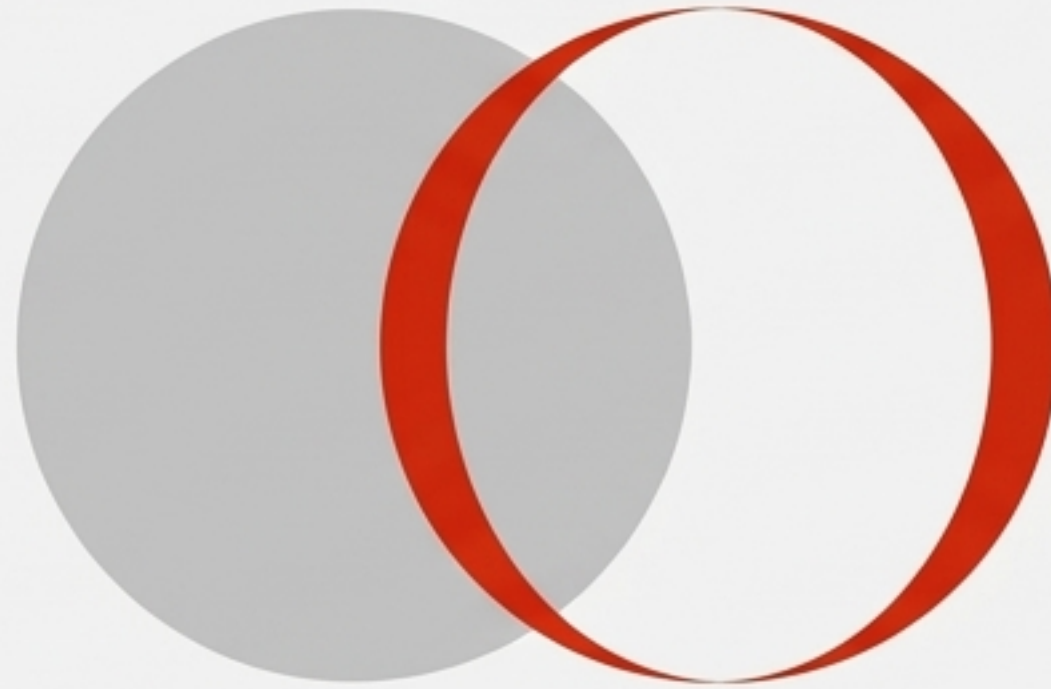
「チームメンバーの胸倉をつかめますか？」
嫌われるかもしれない。孤立するかもしれない。
だからこそ、この問いは重い。

自分以外の何かのために、どこまで責任を
引き受けているのかが問われている。

その沈黙を見つめ直す。

【表面上の理由】

- ・「仲間を傷つけない」から黙る。
- 波風を立てないことを「優しさ」と呼ぶ。

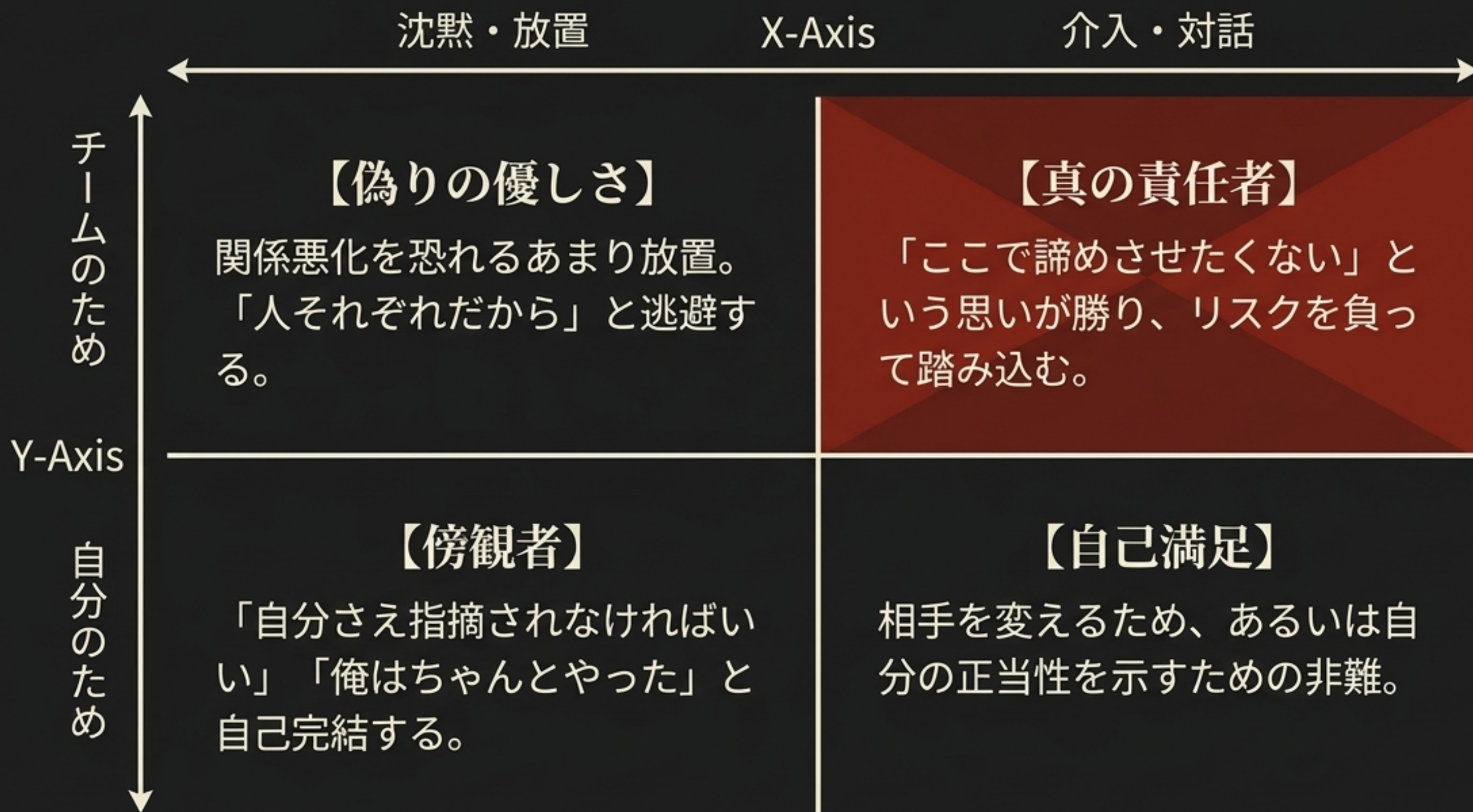


【深層の真実】

- ・「自分が傷つきたくない」から黙る。
- 嫌われず、孤立しないための「保身」に過ぎない。

優しさだと思っていたものが、保身であることも多いのだ。

チームにおける「沈黙と介入」の力学



投げ捨てられていくものを、見過ごせるか。

「一生懸命働いてサッカーもやってんだろ。
こういう時間無駄にすんなよ」 — 槇野監督



試合のスコアだけでは見えない背景を背負っているからこそ、目の前の「諦め」は見過ごせない。

引き受けている「責任の範囲」の違い

「俺はちゃんとやった」で終わる人

- ・ 責任の範囲：自分自身のタスクのみ。
- ・ 行動：仲間が諦めても、黙っている方が「得」。
- ・ 結果：波風は立たないが、チームの価値は沈む。

「俺たちの時間を無駄にしたい」と踏み込む人

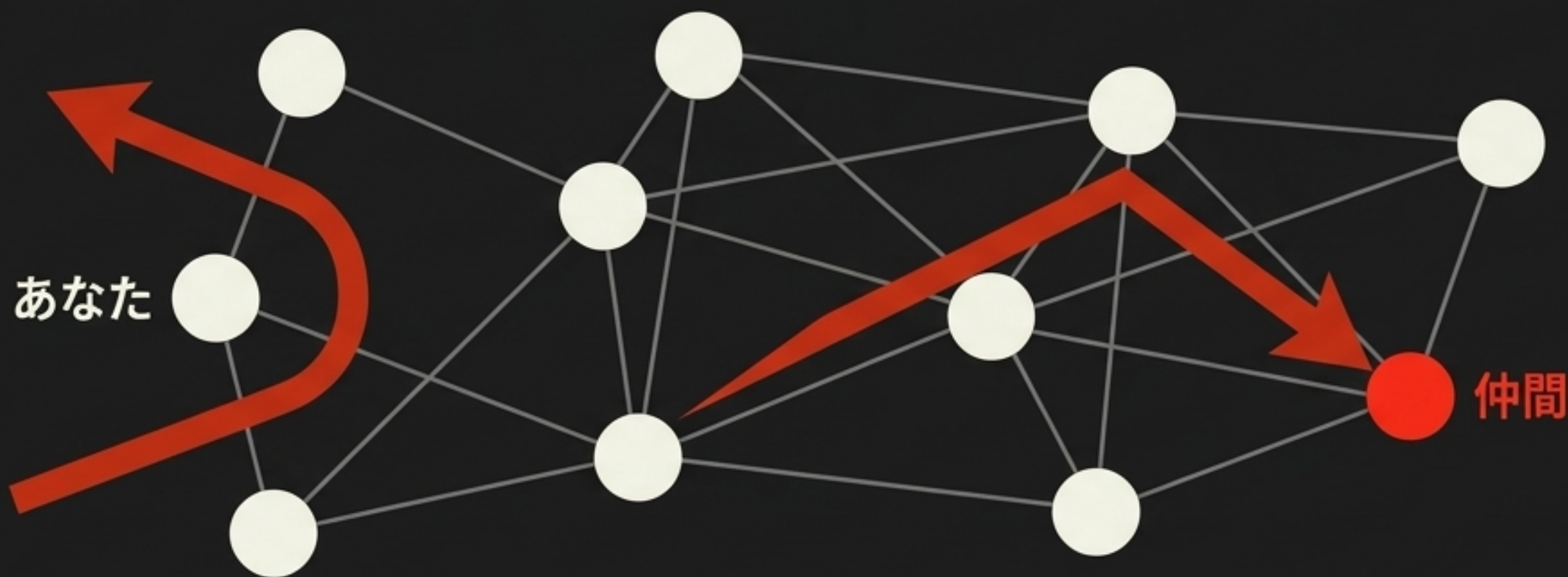
- ・ 責任の範囲：チームの共有時間と目標すべて。
- ・ 行動：嫌われるリスクを冒してでも、声が出る。
- ・ 結果：責任感が人を変え、チームを引き上げる。

回避した対立は消滅しない。誰かに転嫁されるだけだ。

人は、黙っていれば責められずに済む場面がある。

「人それぞれだから」と言えば、理解のある優しい人にも見える。

しかし、その間にも、自分が引き受けなかった対立を、必死で引き受けている者がいる。



自分が嫌われずに済んだ陰で、一体誰が「嫌われ役」を背負ったのか？

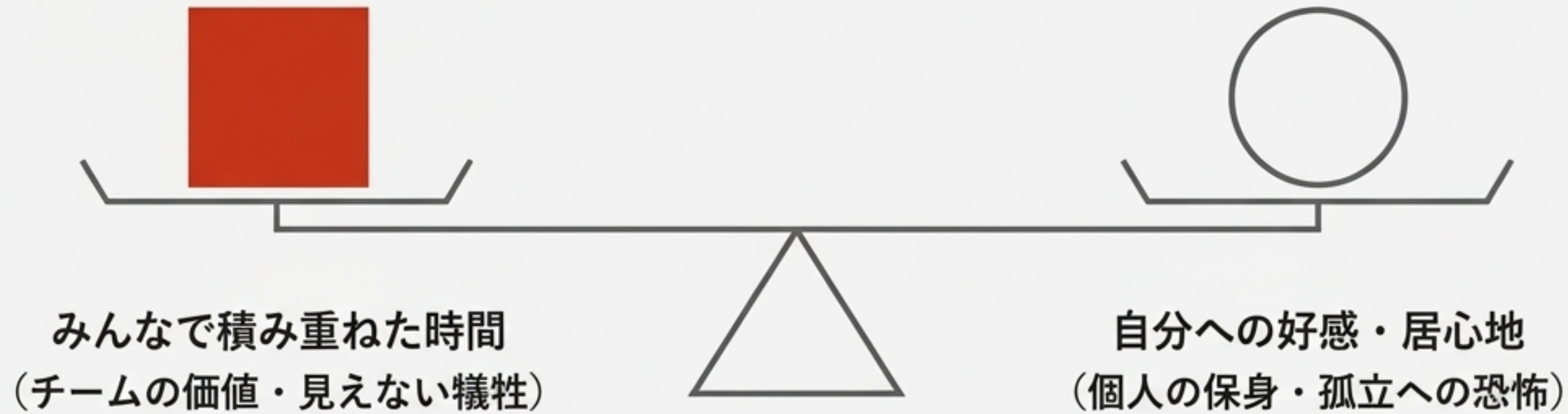
「ただし、例外もある」という逃げ道。



真っ直ぐな問いに対し、「ただし、例外もある」と無難な一般論へ話を戻してしまうこと。
それは、波風を立てまいとする「沈黙」と同じ姿勢だ。

この問いを前にして、安全圏から評論することは許されない。
問いは、読む側の責任を容赦なく突きつけてくる。

仲間が諦めかけた、そのとき。
あなたは何を惜しむのか。



「仲間が大切だ」という言葉の真の重さは、自分の居心地が悪くなる場面でこそ問われる。

優しさを言い訳にするな。

責任感は、人を変える。

これまで言えなかった言葉が出る。

黙っていたら場面、声が出る。